孝孫
里見
八犬傳
九

へ13
3704
9

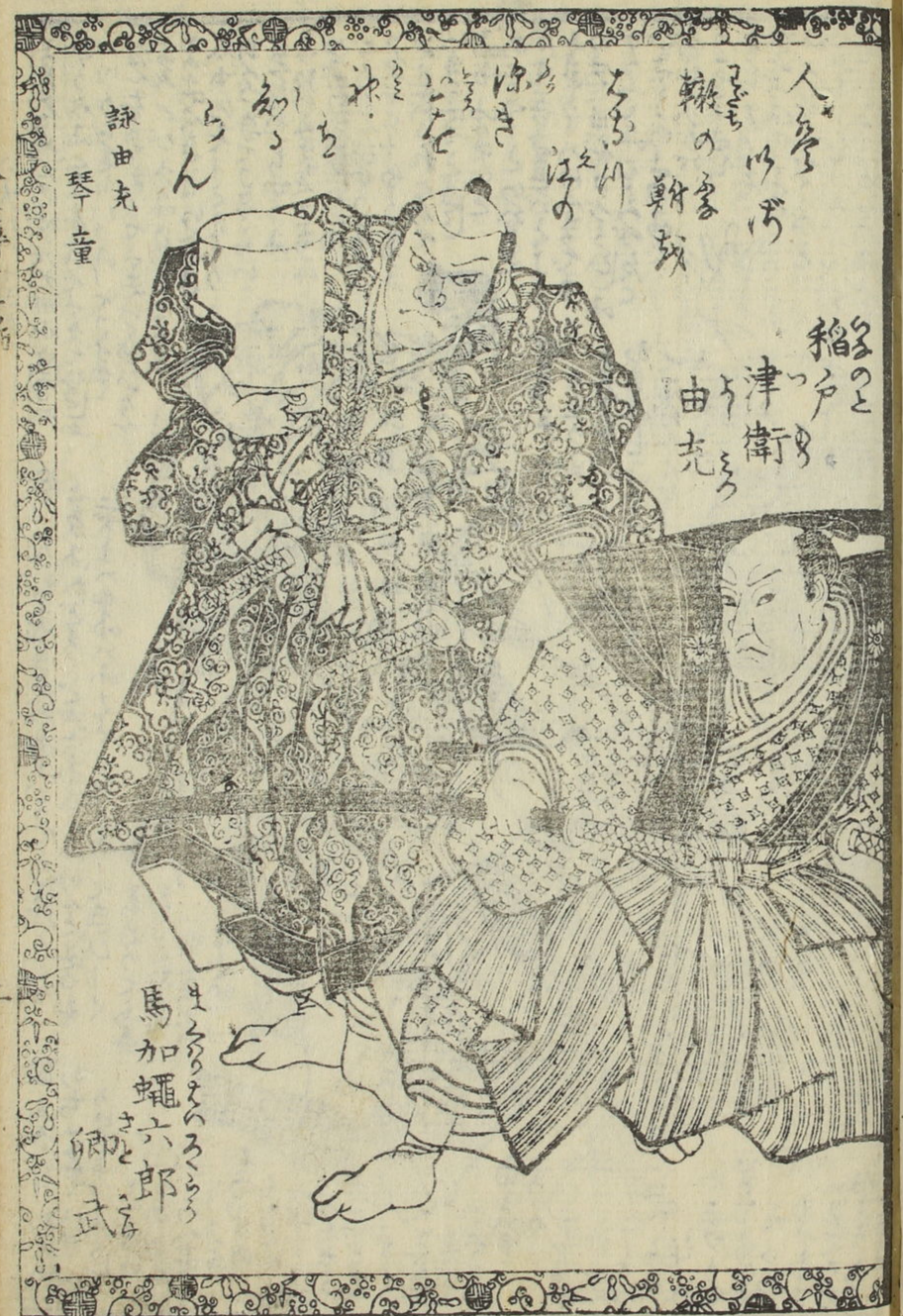
門 へ13
號 3704
卷 9

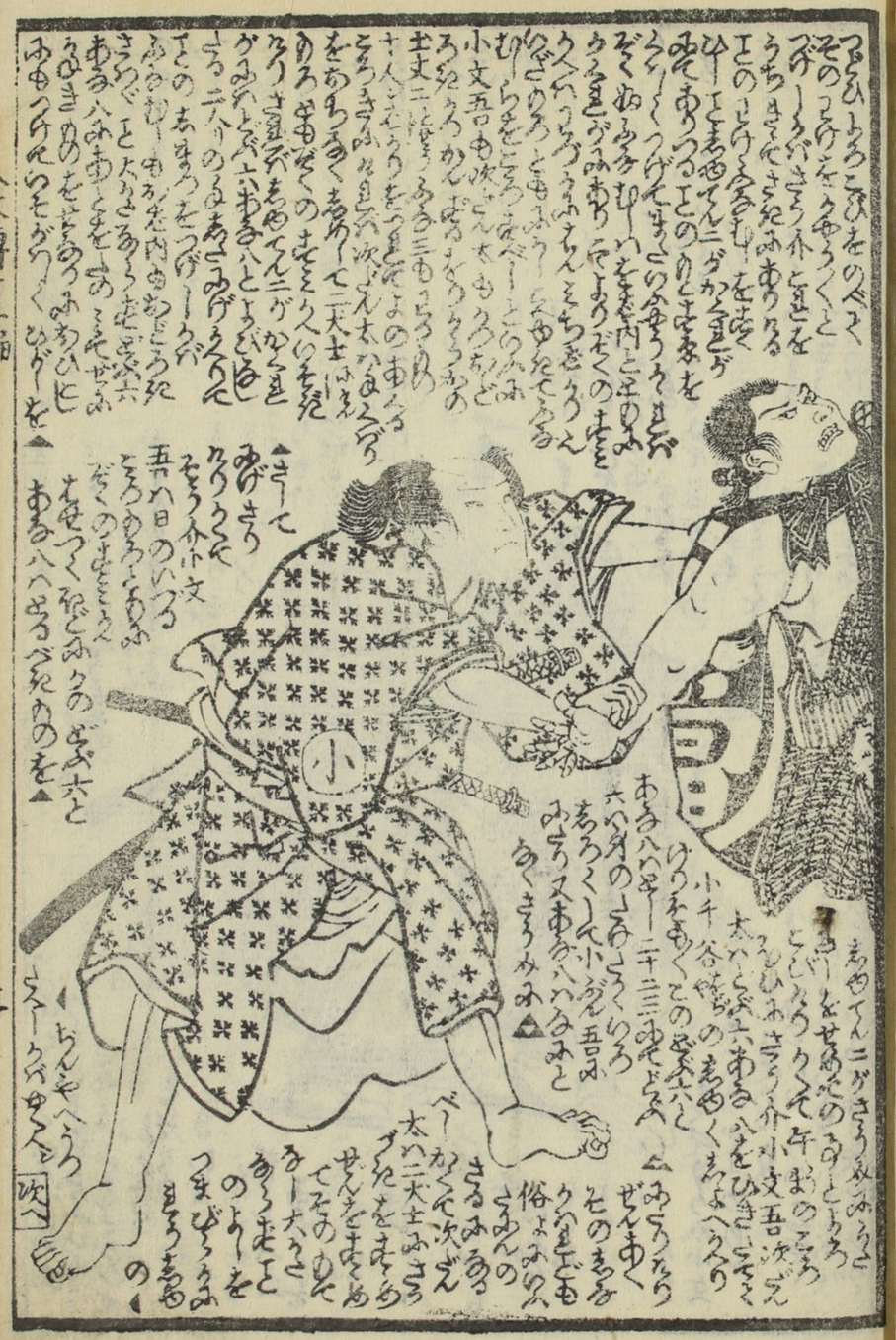
櫻花紅葉我双べ画がし讃よ。加賀我季鷹ぬしの双べうゑ
ものいちりの紅葉なよ緑花世もの面年は寿内ふ世の秋と絵れう
年ゝ歳々出板の。合奏の花同じうら。吉野の櫻花奥西
の紅葉。一所よりもたら大江戸の花は錦繡の櫛外標本。
作意の丹味よ實我績べ何是疎ゝ中よ。只佞ゲごゑ
深山木ゝ。月我歓び見ゝ花ハ作ゝ実ゝ世れど有繁
祖父の色香よ。なりて耕ゝ此合奏。実の生る木ゝ
花より色。咲くよ喜び結ゝ入が大事と。朝ゝ夕ゝ愛慢ぐ。
優曇華十返の花咲く春我。彩ゝ鳥呼のうぐなうる。

安政三丙辰年春吉新板

曲亭琴童誌

琴童
題詠


詠由充
琴童



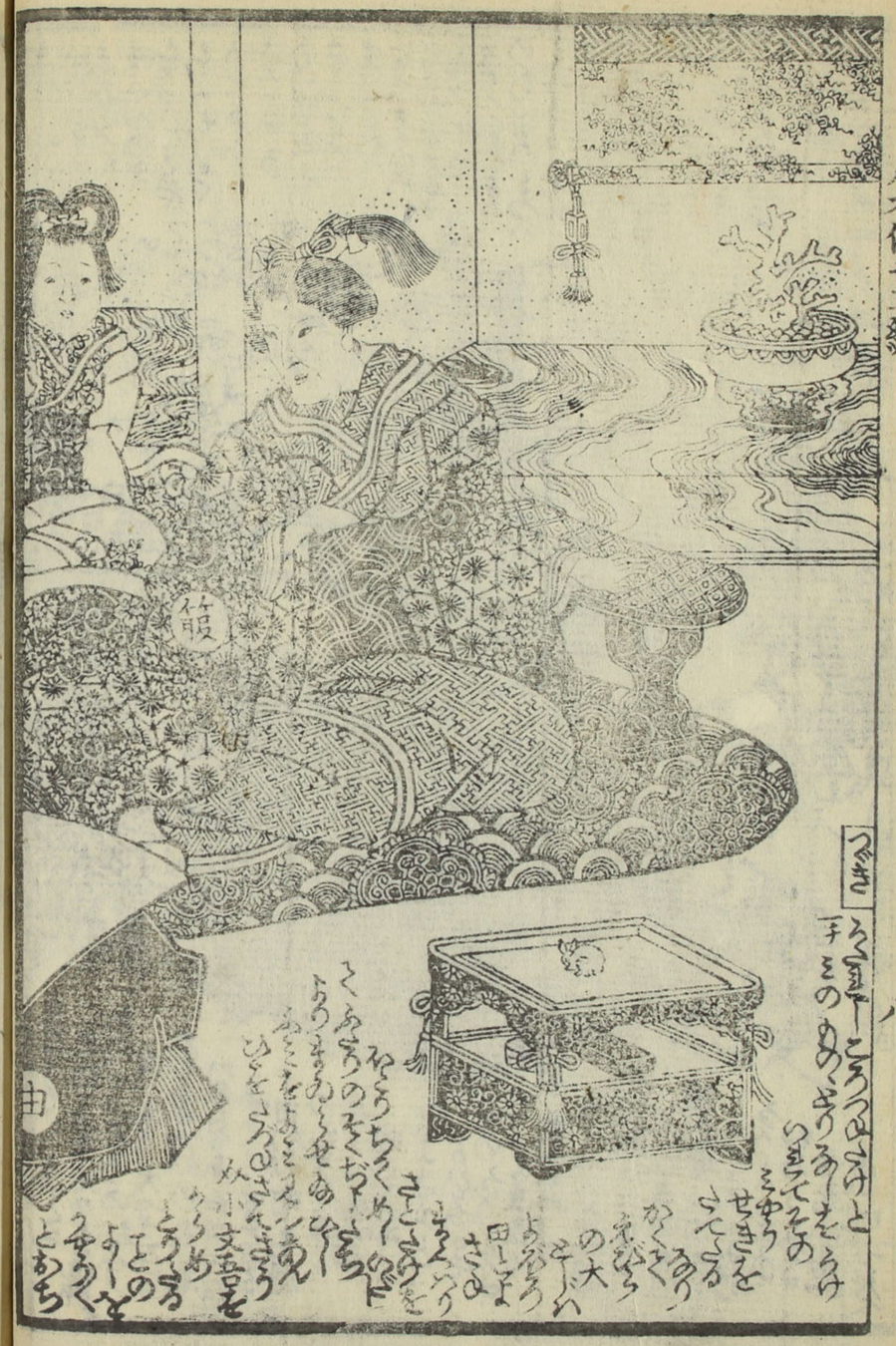
小
荘

南
萩

小
杜

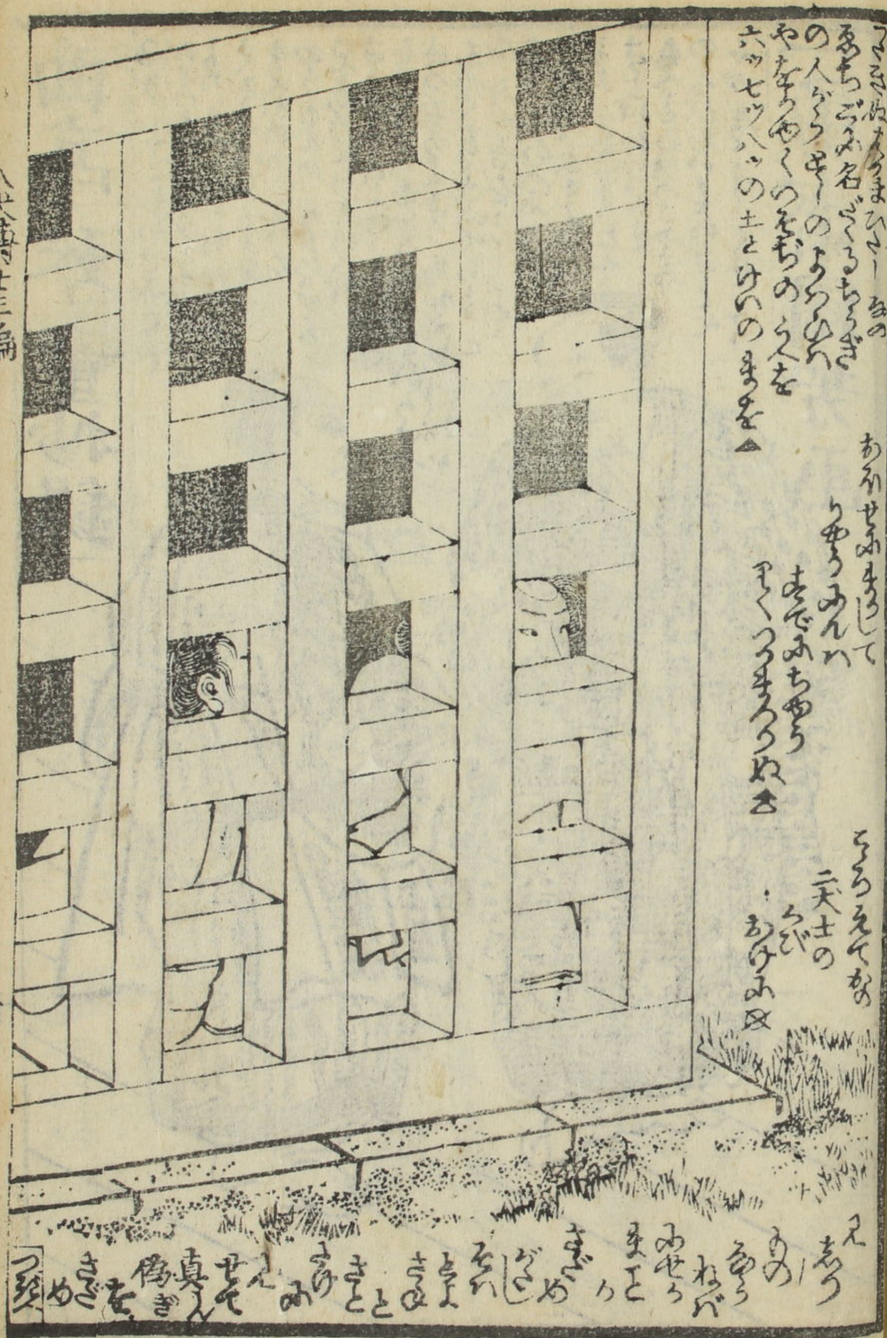
つゞき

上
小



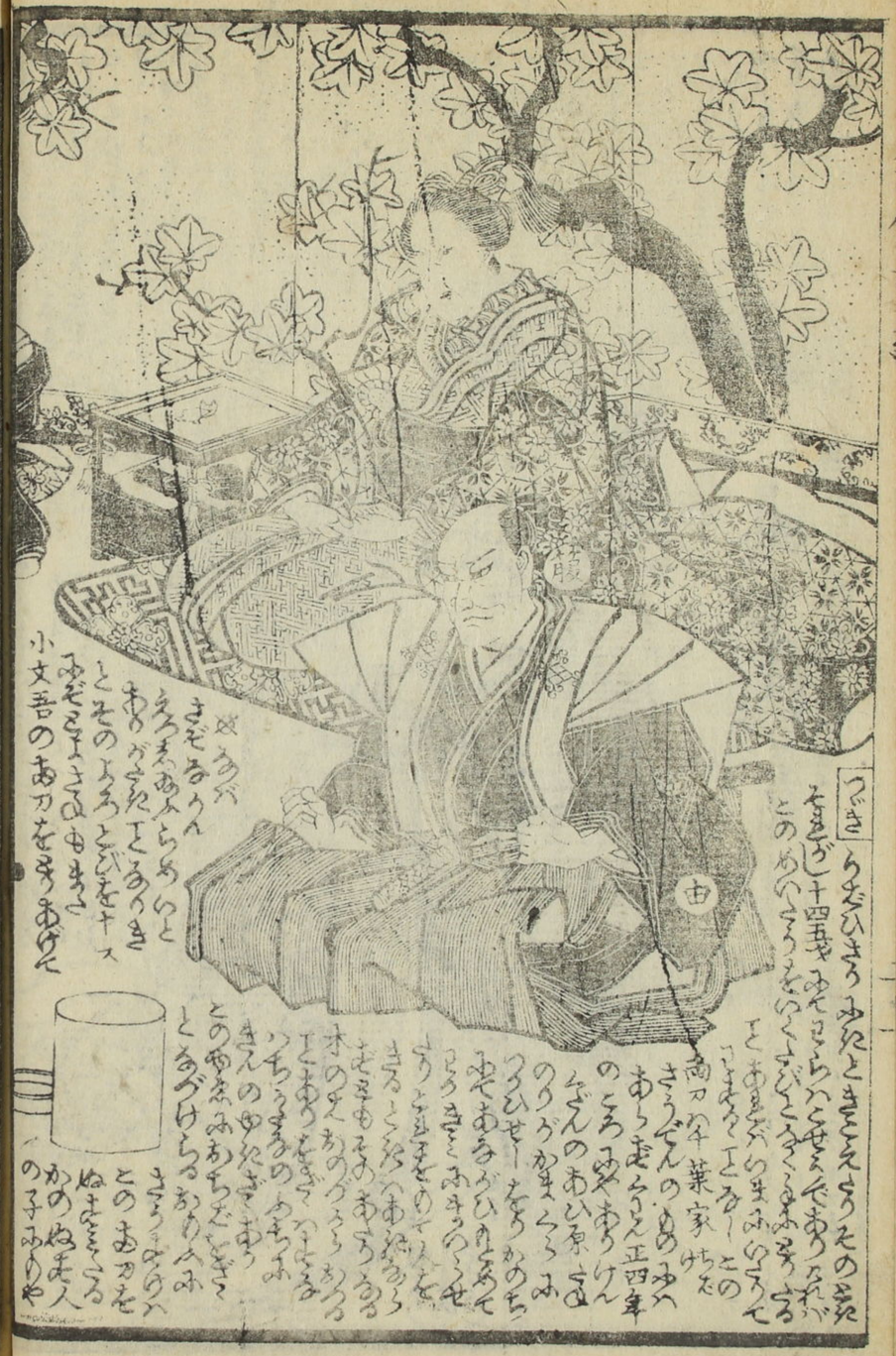
つぎ

つぎ



曲亭琴童抄録

一勇齋國芳画



つゞき

らぞひさう　ゆえときこえさうその義
そまじ十四年　みそ　ら　ハくせ　そ　ぞ　ありふれ
とのめいさうをいくさびくさくるみそうする
とあるべのまみのうて
こまゝ　とあ　し　この
南方の年業家ぢた
さうぞんのゆへ
あうまるうん正四年
のころゆへ　りけん
ぞんのあい京さん
のりうかまくらみ
つひせーをうかのちう
ゆさあるびひかとめて
ひうきこみきうこせ
うとまをりてんを
きるとゆへあねるう
まさもゆみあうるる
木のえあのうるうあるる
とあうたぎてなとる
いちうまるのふちふ
きんのゆえみあちだとぎ
とるづけらるありふふ
きううのの
このあかを
ぬまこうる
かのぬま人
の子みりや

社平ひが太刀ふこそりゝ
こらゝまぐそえだめふくい
らぶをまぐーえのとろうぐん
の社平ーゆとぐうあくりしうが
をまつふりるどをそうまうびうう
もゆいまを太刀をもまるしあのうりん
ひあうふあうびあるんのよろ
こびこのうんやいべきとうをえ
ゲかふこびまうやあぐうの
大刀自ゆふうあづをとれ自
ぞりふてーぐうるさんれのぬし
さんまさうふまうまんを出処は
ぬんこゆうあうんゆいぬまを
のるとうぐひ白しぐびと

ひんんとの
うるを
どらん
ぜよこう
さんふ
小文吾
らぶ

丁

馬

ゆらん
手りふ
のうりて
あるえふ
こまをを
きるあ
らぬ

ゆうより
うるまを
つるぞあーぜうみあり
ゆひぬをーうろ五郎も
えんゝ六郎も
いつくひてゆへばんびも太刀
もれぐひのまふく
ゆまてをくーもんとも
さうりうあうぬとみゲう
ひうりのえづひと

つゞき

丁
馬

馬

丁
馬

つぎ
馬

一

大父著作堂晩年ふ千八耶振神田より。ちの呉竹の四ツ谷の里へト居せーより二十餘年。松風蘿月友とするのみ。那丁町てふ一所へハ。ハるく遠くなりてる戸厩ハ通ふハ板元の。此抄録ある故也ろ。されバ製藥讀書の余暇。筆を把りーも茲ふ四五年。書讀む甲斐ふ拙くまた。なれ此外ふも著述さんと思ふのもあるにふ。ものゝ若冠の初舞臺皇幕中ふ思惟れバ謂采と當を取るべ。と吾ふ人意ーて。秘麓ふ藏めて人ふ示さ。バ白魚の捿居ふ倣んも。有繋ふ遺憾ふ。ふ抄録せー。序ふ。ふ紙ふ。ひ出く。木ふ竹を接ぐ兩手。似げふ。序文と笑ハせふ。なる長久ふ見ふ。

曲亭琴童識

琴童

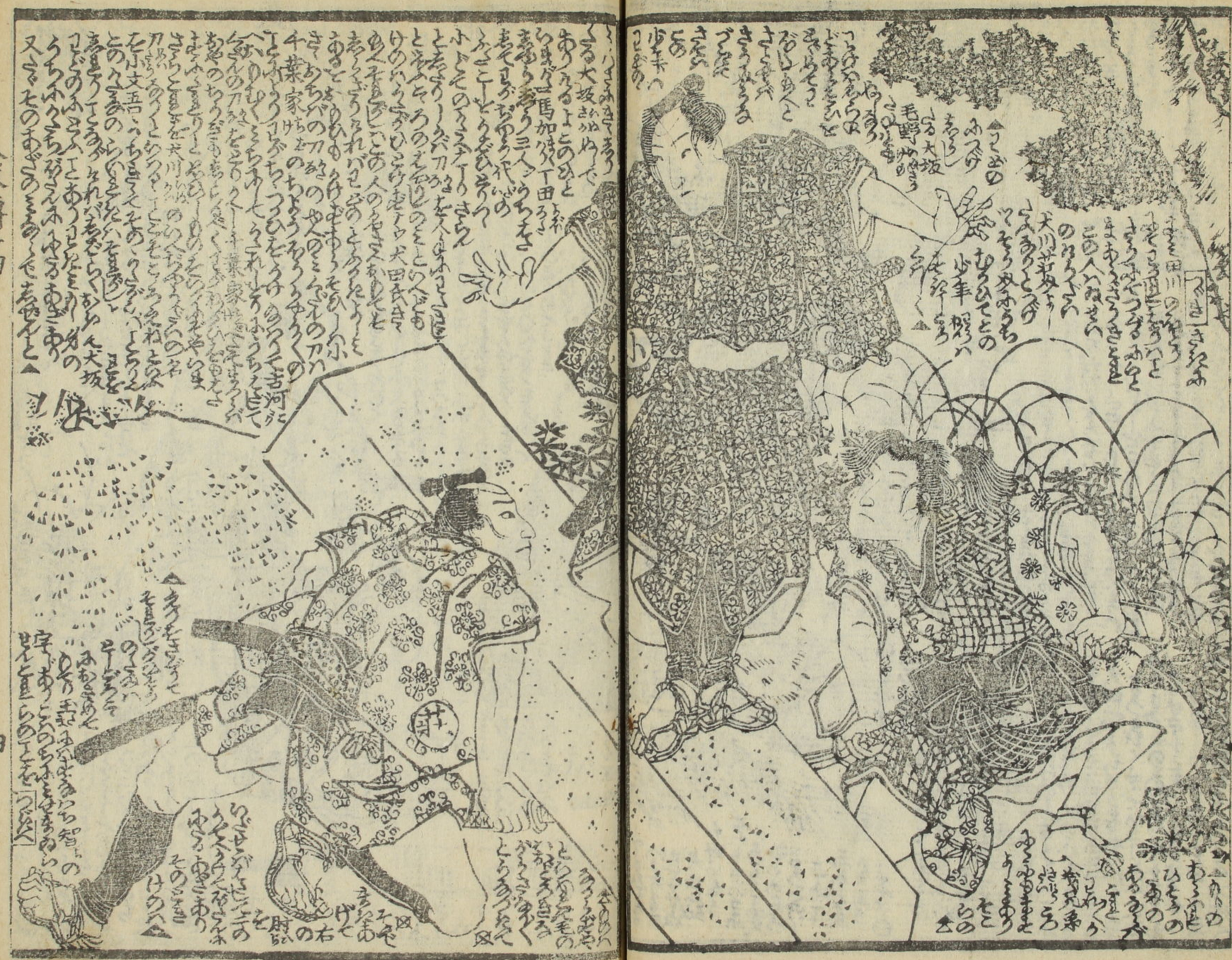
上行衆の
栄き
しる
夢
年
奥
任る
江戸
今
入り事

興良像賛

落鮎余之七
有種

ほの
人ありひと
まち
八幡
神の
森へ
ゆ
琴童

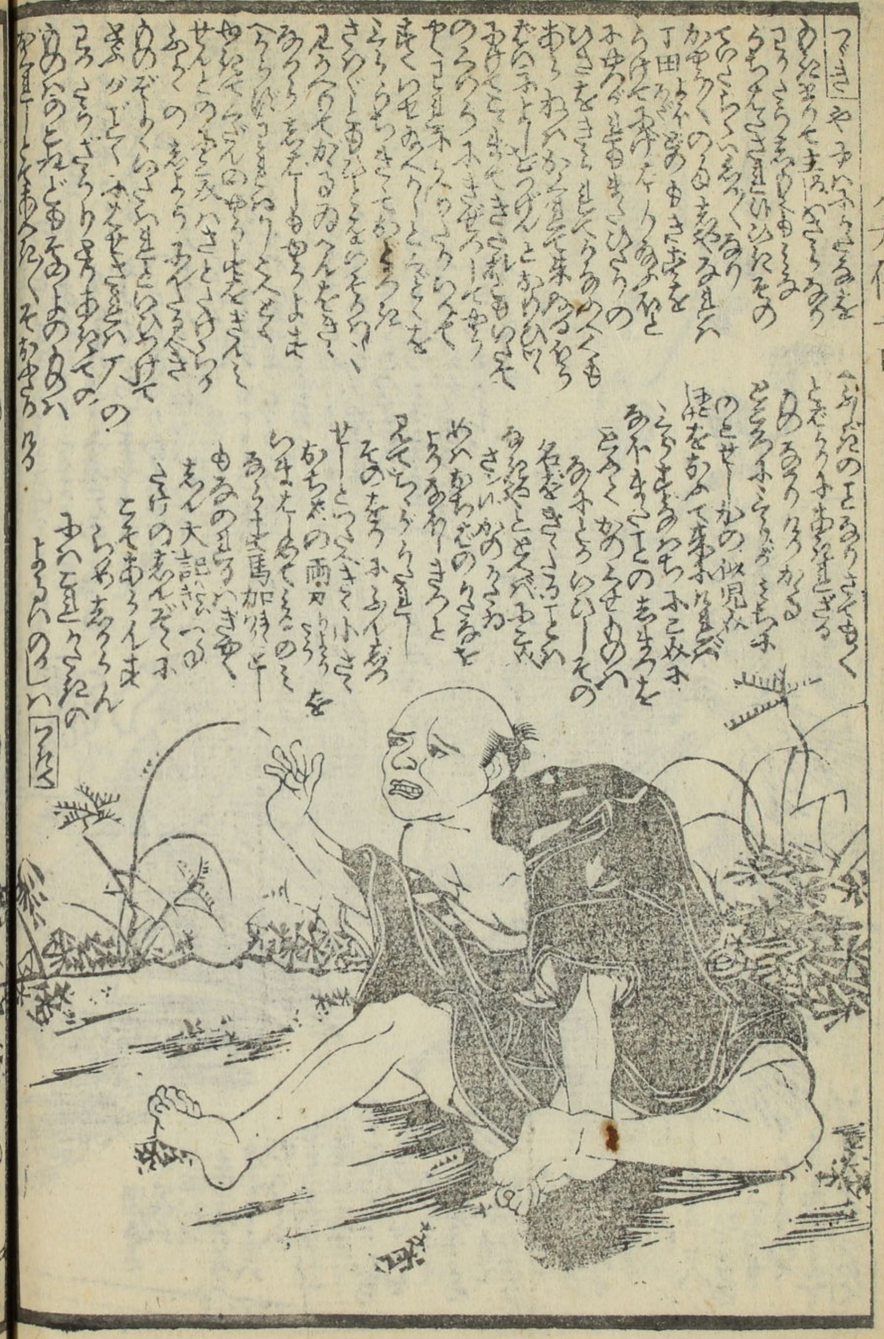
余之七
妻
重戸



小文吾
毛

北

小
豊



琴童抄録　國芳畫

つづき

家傳神女湯　産後の血のみち　婦人の病

一包代百銅

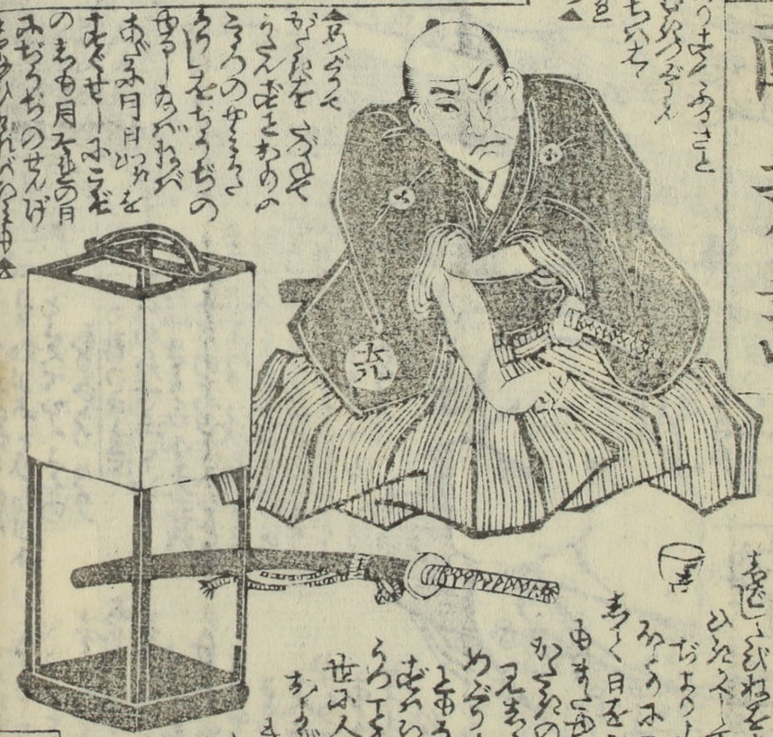
精製奇應丸　大包代二朱中包代五分　小包代五分

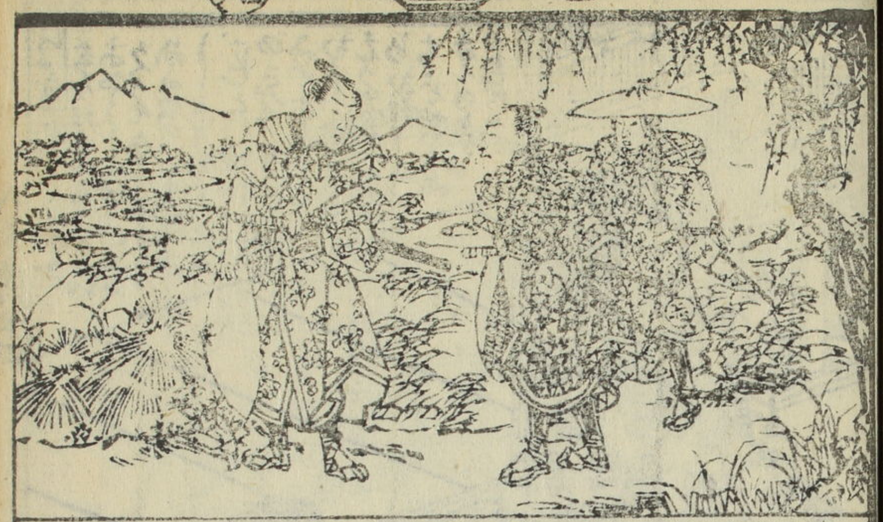
熊胆黒丸子　一包代五分

婦人の虫の妙薬　一包六文銅

製藥本家　四谷塩町二丁目　千日坂の上　瀧澤氏

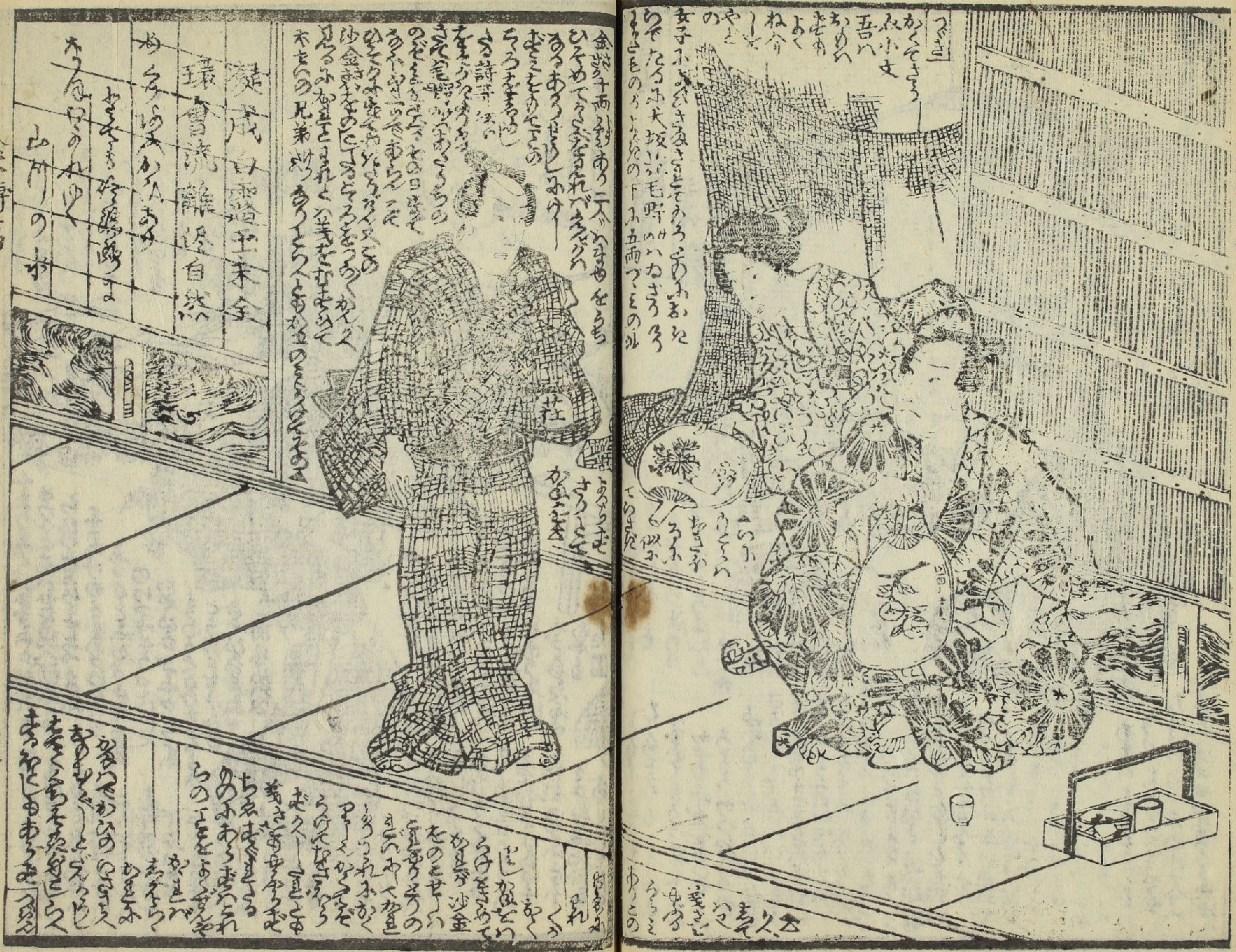
弘處　元飯田町中坂下　東側四方の角　大沢氏





上の巻へつづく

下の巻へつづく


つゞき
かくてきく
吾ハ
女子ふしぎ
大坂
毛野
五両づゝ
金子千両
猿成白露玉未全
環會流離逐自然
山川の
兄弟
沙金

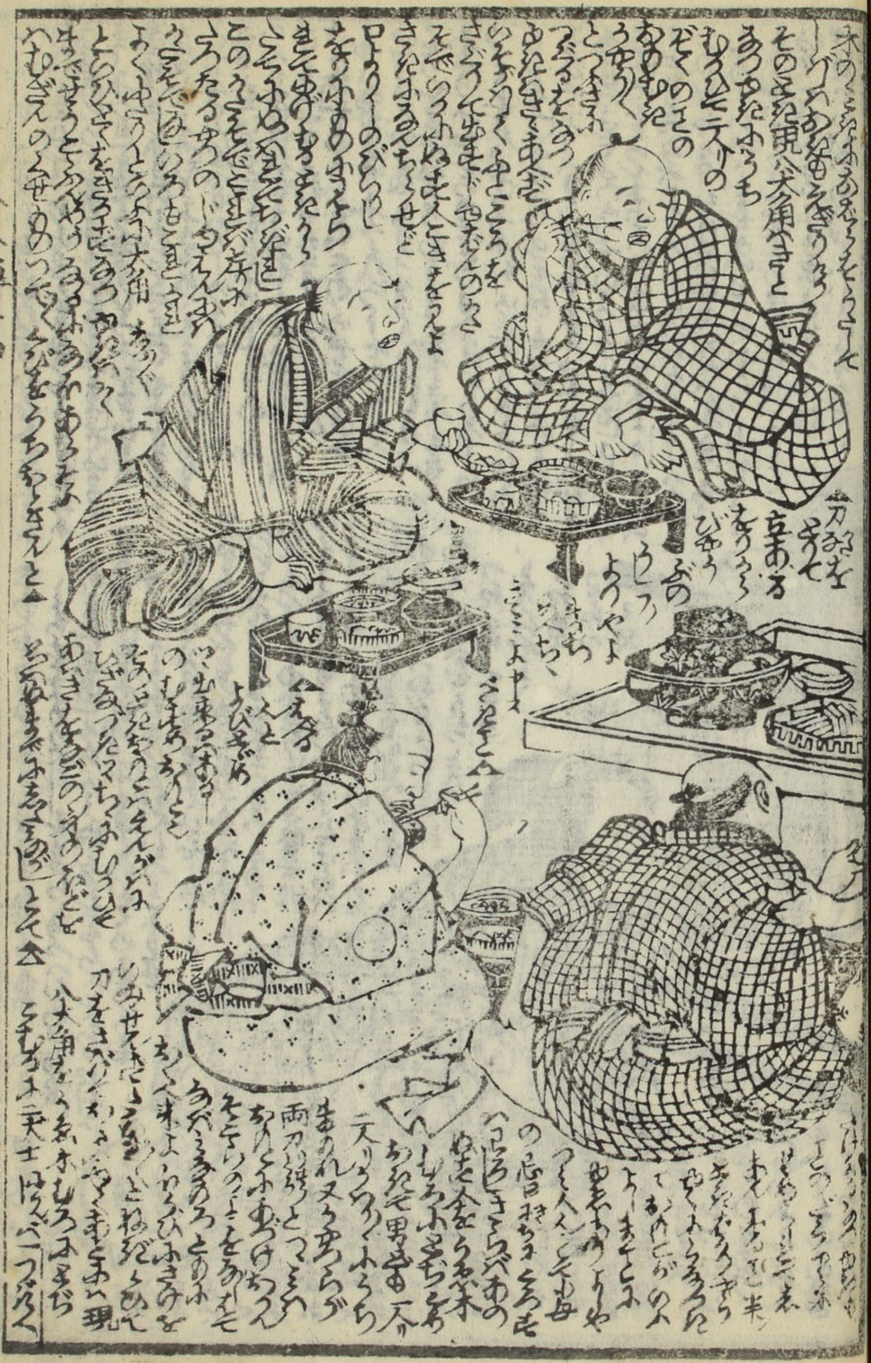
角
現
氷

氷
角
現

角
夢者

夢者

現
用



角
重

曲亭琴童抄録

一勇齋國芳画

竊謂。世間の人。貴賤各異なれども。親親仁民愛物の心ハ。天の附與せる處。日日これを存して忘るべからざる。若夫博く施し衆を濟ふ。卑賤の者のことふあらざる。只その分に隨ひて人物を愛育するハ。賤を身にも行ひ易く。聖人の道及ばざるとて自逸るハ則是自棄自暴なり。豈是をもて人といふべんや。周禮に民數を王に獻れバ王拜して之を受く。王者ハ民を以天とす。是故に道をもて博く民に仁愛あり。譬小事ならんども。世人の爲にあるこゝ心しもて廢さゞるべからず。されば本書を其仮名の國字讀八犬傳も。彰善癉惡の意を述べれば世の迷ひの一段ハ。小補あるこゝ疑なし。常時不易陳腐舊漢ハ婦幼の爲ゆへ厭ハるべく。大方の爲ゆへ欠ハるべんと思ひ。ものゝ自序ならんと。

安政四丁巳歲初春新鐫　曲亭琴童識

濁り酒
琴童題詠
土丈二
一經齋芳虎
琴童題
朝三
石亀屋を鳴呼善

道

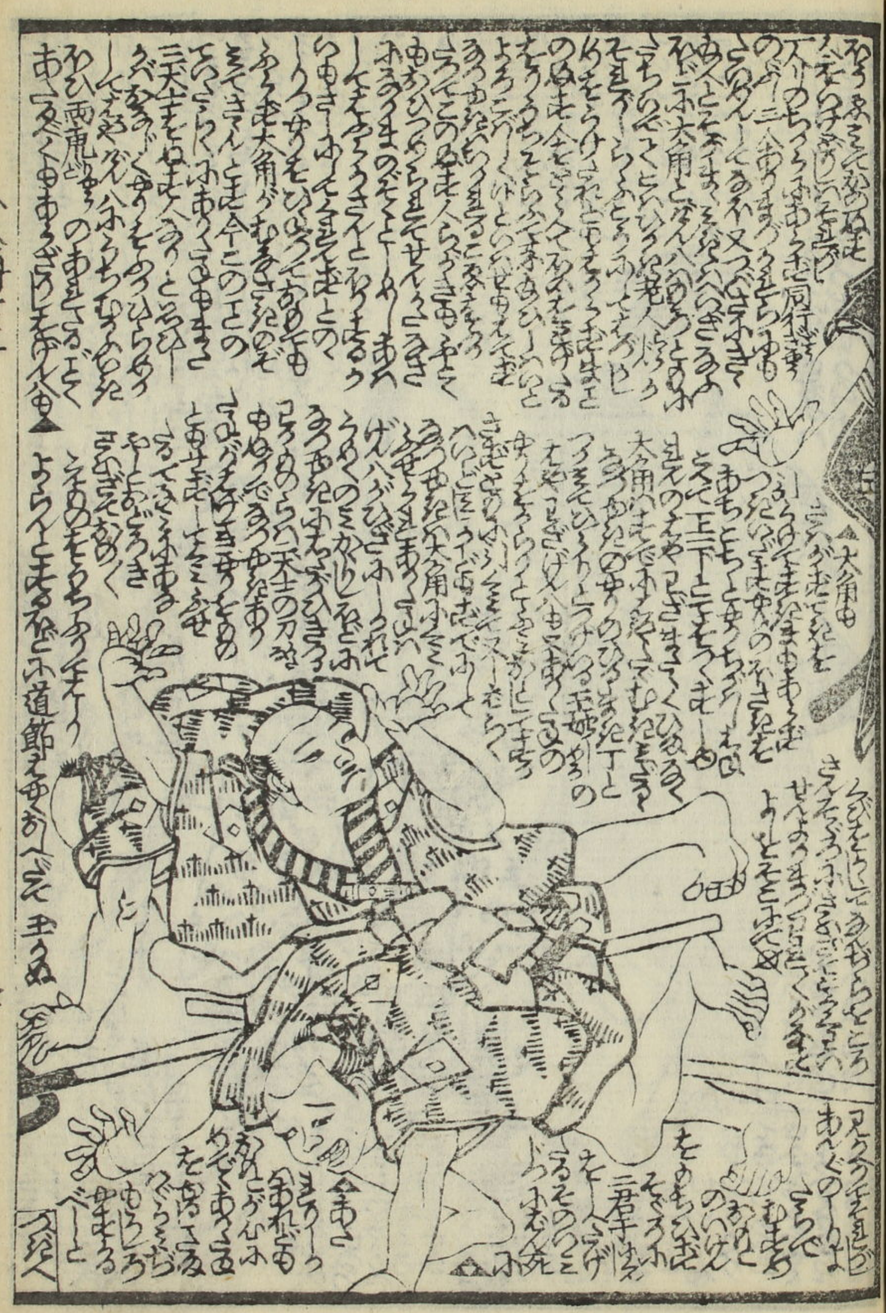
河
信

つゞき
信乃道節
夏

信乃道節
重

夏
有
現
角

信
道



信
道

有
夏

道
百
重

琴童抄錄　國芳画

つゞき
信乃道節
小文吾
毛野
犬坂毛野
犬川大田
文明十五年

道
信

めづらしやな
平太郎えり
さりそ

由亭琴童抄録

一勇齋國芳畫